

生きづらさを抱えた子どもたちへの 多機関団体連携型寄り添い支援事業

特定非営利活動法人 ハーフタイム

- ◆助成テーマ：希望する教育を受けることを阻む経済事情など様々な制約の克服に資する事業
- ◆助成区分：地域連携（東京都葛飾区）
- ◆助成金額：2,294千円



○ 事業概要

貧困、虐待、いじめなど様々な生きづらさを抱え、自尊感情が低く、将来に対して消極的になってしまっている子どもたちが「自立する力」を身につけられるようにすることを目的に、地域における多様な関係機関と連携しながら、主として大学生ボランティアの協力を得て拠点型及び個別対応型での一貫した包括的・長期的な寄り添い支援を実施。また、それら寄り添い支援の体制がこれまで以上に充実及び持続可能なものとなるように、団体の運営基盤体制を強化する事業を実施した。

○ 事業内容・実績(アウトプット)

① 生きづらさを抱えた子どもの第三の居場所づくり事業

子どもが安心できる居場所づくり及び生きる力の醸成を図る(生活相談、学習支援、食事提供)とともに、関係機関と連携して保護者への支援を含めた生活環境の改善を実施。

- ・子ども延べ28名、保護者延べ2名
(目標：子ども延べ100名)

② 生きづらさを抱えた子どもへの個別の寄り添い事業

葛飾区内で子どもと信頼関係を構築し、生きづらさを軽減し、生きる力の醸成を図るべく、SSW や子ども総合センターを始めとした関係機関と連携して、個別の寄り添い支援を実施。

- ・子ども延べ436名、保護者延べ55名
(目標：子ども延べ100~150名)

③ 子どもたちの社会的自立や健全育成に関する情報提供事業

当団体の知恵や知識を共有するため、HP等の充実を図るとともに、講演会を開催。関係者への情報提供や課題に対する個人・企業の理解を高め、当団体の活動への新規参画者・寄付者の発掘を図る。

- ・参加者 延べ86名
(目標：関心のある個人・企業など140名)

○ 事業の成果(アウトカム・インパクト)

● 子どもたちの変化

生きづらさを抱えた子どもたちにより変化があった。不登校で外出機会がほとんどなかった子どもが「学校に行きたい」と自ら述べるようになり、週に1回の登校ができるようになった事例や、ほぼ無言で時には暴れていた子どもが関係性を構築したことにより、暴れることなく話すようになり社会参加につながった事例等、多数の子どもに変化が見られた。

● 社会課題を広く発信する機会を獲得

主催した講演会を通して、「東京都子供・若者計画(第二期)」を取りまとめる東京都の担当課とつながることができ、子どもたちの現状や寄り添いの本活動が事例として取り上げられた。

○ 取り組みの工夫(事業実施体制・プロセス)

● 積極的に関係機関・他団体と連携

ボランティアスタッフとともに寄り添い支援を実施するとともに、学校や行政など関係機関と役割分担を行い、重層的な支援を展開することができた。今事業を通して、新たな連携体制も構築することができた。

● 効果的な広報活動

講演会開催前に、区役所関係部局、区議会、他団体などに対してチラシ・Facebook・メール等で幅広く広報したことにより、多数の関係者の来訪につながった。また、すでに当団体を知っている関係者へのアプローチを強化したことにより、クラウドファンディングのマンスリーサポーターを増やすことにもつながった。

○ 評価者より

公的機関でも対応に苦慮する、環境課題のある児童に対し、民間団体としての特質を活かした寄り添い支援を実施しました。

また、団体の活動が「東京都子供・若者計画(第二期)」に事例として取り上げられるなど、行政と協力関係を保ちながら進めていることも高く評価できます。